

トンボの飛来種について

福井順治

トンボ類は飛翔力が強く、夏から秋にかけて、台風や大陸からの季節風に乗って国外から飛来したと思われる珍しいトンボが見つかることがあります。2023年も次のようなトンボが観察されました。いずれも撮影地は浜松市です。

ヒメハネビロトンボ（コモンヒメハネビロトンボ）♂ 2023.9.13（掛澤孝彦氏撮影）

日本では南西諸島に分布する南方系の種で、よく似たハネビロトンボが毎年のように記録されるのに対して、本種は非常に稀です。飛来する個体は翅斑が小さいのでコモンヒメハネビロトンボと言われ、この個体もそれに相当します。

スナアカネ♂ 2023.10.26（福井順治撮影）

南方からの飛来種と考えられているアカトンボの一種で、太平洋側での記録が多いのですが、日本海側でも見られます。その名の通り砂地のような裸地に静止することが多く、複眼下部や胸部下面が青みを帯びるなど異国のトンボの雰囲気があります。

オナガアカネ♂ 2023.10.30（福井順治撮影）

大陸からの飛来種と考えられているアカトンボの一種で、日本海側で記録が多く、太平洋側では強い季節風が吹いた後に稀に見られます。静岡県内では5年ぶりに確認されました。顔面が白いことが特徴で、名前は♀の産卵弁が長いことによります。

ヒメギンヤンマ♀ 2023.11.8 齋藤舜貴氏採集（福井順治撮影）

主にアフリカやヨーロッパに分布する茶色味が強い小型のヤンマです。日本では定着していないので、ごく稀に飛来する個体が確認されるだけですが、なぜか本県では突出して多数の記録があります。



コモンヒメハネビロトンボ♂遠州浜



スナアカネ♂遠州浜



オナガアカネ♂遠州浜



ヒメギンヤンマ♀遠州浜 2023. 11. 8 齋藤採集